

オモヒハカリノサトリアリケハオモヒテマヲサクカノカニノミカタヲウツシツクリテタテマツラニヲキ
思慮之智乃思而自曰宜圓造彼神之象奉招禱也

あゝ招禱^{ヲキ}られや又海神宮段風招^{ヲキ}と云事もあり風を招き

發^{ワザ}せ方や萬葉集十九卷^{二十}七^丁霍公鳥を待みや月より

日よりとさつ同十七卷^{四十}丁鷹の放^ハつるを招きよせんとする

忠べのあき事を呼^ヲくよれとよあられともあり後撰集

雜三^部なるよとさくうもいはれ拾遺集物名の歌

はくこれとさくせんともあり是等も招^{ヲキ}寄るよといへ

あゝあきやあきせてもあき今もあきといはれ秋のあき

古語に云るが如く古きよは似るハのれ鷹の事也然此と

屋敷をせバいふくありむと云意也外に義なり塙本